ＦＯＡ関東審判部

FOA-NEWS

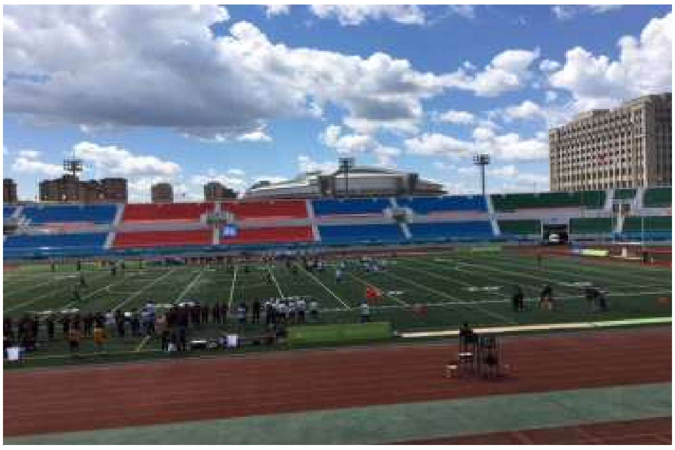
通算第４２号

2018/12/5

2018　世界大学生選手権　ハルビン大会　報告

波 田 哲 二

6 月 14 日（木）から 24 日（日）に、中国ハルビン市で開催された IFAF 世界大学生世界選手権大会に、日本人審判として関西から杉本均さん、岡田功さん、崎浩典さん、東海から萩原徹さん、そして関東から田中淳夫さんと私の計６名が参加いたしました。
審判団の構成はアメリカからはレモニアさん（予定ではバリナガさんも加わる予定だったのですが、中国入国審査でのトラブルのため結局入国できず不参加となりました)、メキシコ１名、フィンランド１名、韓国２名、中国４人、日本６人の計 15 人で構成され、途中で韓国の２人が離れ中国から１人が加わり 14 人体制でした。
参加国は日本、メキシコ、アメリカ、韓国と開催国中国の計５か国で、総当たりのリーグ戦で計 10 試合が行われました。



ハルビン商業大学グラウンド

【大会の会場と周辺環境など】
大会の会場となったハルビン商業大学内のスタジアムは、２年前の６月に行われた U-19 大会でも会場となった(その際に新しく張られた）人工芝のグラウンドで、大変良好な環境でした。
宿泊場所は大学から ３ｋｍほど離れた龍唐ホテルをあてていただきました（日本・アメリカ・韓国チームと同宿でした)。２年前の大会の際は大学内のホテルだったということで、食事などの環境があまり…という話を伺っていたのですが、このホテルは割とグレードのよいホテルだそうで、食事もいわゆる「ホテルのバイキング形式」のものをいただくことができ、心配していた野菜や果物もそのまま（生）でいただくことができました（特に日本では食べることができない生のライチが大人気でした)。

また、出発前に最も心配していたのが飲料水(特に試合中の給水)だったのですが、地元の飲料水メーカーがミネラルウォーターのオフィシャルサプライヤーになったため、選手も含めてペットボトルで大量のミネラルウォーターの提供をいただき、試合中の給水に関しては全く心配がありませんでした（審判には試合会場とは別に宿泊先にも提供をいただき、その量の多さのあまりレモニアさんが「ライフジャケットが要るねぇ・・・」とつぶやくほどでした)。
またゼブラジャージとスラックスに関しては無料で翌朝までにクリーニング仕上げをしていただきました。

無料支給されたミネラルウォーター

大会の運営に関してはハルビン商業大学の学生や教員の方がボランティアとして大変尽力してくださいました。ボールパーソンやチェーンクルー、GC・PC の操作も学生や中国チームの関係者が担当したため、彼らへの説明や試合中のサポートを日本人審判で非番だった者が交代で行ないました。
ホテルの周辺は、５ 分ほど歩いたところにコンビニが、10 分ほど歩くと小さなショッピングモールがあり、ちょっとした買い

ボランティア大学生

出しにも苦労はありませんでした。
ホテルの隣には地元の生鮮を扱う市場と屋台があり、ゲームデイの夜は審判の方々で串焼とビールをいただきました（結構飲み食いしても、1 人当たり日本円で 1000 円弱という安さでした）。今回は食生活・住環境にかなり恵まれまして、大変ありがたく思いました。
ハルビン市は北海道の稚内と同じ緯度にある都市なのですが内陸部に位置するため、夏にさしかかるこの時期はいわゆる「雨季」になるそうです。大会期間中、前半の数日は夕方のどこかでかなり強い雨が降る（14 日の日本－韓国戦は雷雨で１時間半中断の後打切りに）という不安定な天気でした。後半は雨が降ることはなかったのですが、昼間は 30 度近くまで気温が上がりかなり暑くなりました。ただ日中は風があり、少し日が陰るとしのぎやすい陽気になりました。

【試合に向けて】

大会の約１か月前、レモニアさんが本番に向けて情報共有サイトを立ち上げて下さり、私たちはそのサイトを通じて大会期間中も含めて情報交換や伝達の他、ルールに関するクイズや教材ビデオのアップなどが行われ、準備に活用がなされました。
また今大会は IFAF ルールで行われるため、ルールブックやメカニックマニュアルのファイル（共に英語版）もアップしてくださり、個人的には出発前の期間は印刷・製本した２冊の本の読み込み（翻訳）に首っ引きの状態になりました。
実際大会が始まってからは、メカニックはクルーで確認・同意の上、NCAA のものを一部用いる形（前後半で SW と DW はサイドを入れ替える、FG・PAT では必ずダブルアンパイア体制を敷く等）で行ないました。
ポジションについては、事前に「複数ポジションの登録が必要」という話があり、私は DW と BJ での登録をお願いいたしました。
アサインメントは、GameDay＃1 については 5 月下旬に発表されていたのですが、月末と大会前日に対戦カードの変更、さらにバリナガさんが入国できなかったというハプニングもあり前日の夜まで不確定というバタバタがあったのですが、#2 以降は試合翌日以降に行われたポストゲームミーティングで発表されるという形となりました。

雨上がりのグラウンド

15 人で８人制クルーを２試合行うというスケジュールで、レフリーはレモニアさんと田中さんで固定（最終日の１試合は田中さんではなくフィンランドのペルトさんが担当）だったので、当初から必ず誰かが２試合担当することとなり、さらに途中から 14 人体制になったのでさらに２試合担当する人員が増える形になりました（日本人審判は、私以外の５名は、どこかの日に２試合担当することとなりました）。

大学近くにあるレモニアさんお気に入りのレストランにて

【大会期間中のスケジュールなど】

GameDay を中心とした審判のスケジュールは、当日の朝にレフリー担当者の部屋で約１時間プリゲームミーティングを行なった後ホテルを出発、会場に到着後用意していただいた昼食を摂りドレスアップし、開始１時間前に一度グラウンドに出て 30 分ほどチーム練習を見守ります（国際大会なので練習中に両チーム間でトラブルが発生しうるため、45ｙｄ付近に立って緩衝地帯を作るのです）。練習終了後控室に戻りチーム情報を共有した後に再びグラウンドへ出て審判を行ないました。

レモニアさんの部屋にてビデオ学習の様子

翌日以降に設定されたポストミーティングがある日は、午前中は基本的に自由時間で私物の洗濯をしたり近辺の観光に出かけたりしていました。午後に大学の会議室をお借りして、日本チームからいただいた試合のビデオを基に、約２時間ほどミーティングを行ない、レモニアさ

んからの指導をいただいた後に次のGameDayのアサイ

控室でのプリゲームミーティングの様子

ン発表という形式でした。

日本 - アメリカ戦　ゲームクルー

試合やミーティングがあった日の夜はホテルで夕食を摂った後、屋台やコンビニで買ってきたビールを飲むなど割とゆったりしたスケジュールでした。その中で、以前レモニアさんが大学近くで見つけたというレストラン（ハルビンで一番お気に入りの店だとか）に2回ほど出かけて（そのうちの1回は馬島さんにもご招待いただきました）、一番好物のメニューというピザやビールをいただきました。

またこれ以外でも、夕食後レモニアさんから「BBWに関するビデオを流すから見においで」というお誘いを受けて、全員でレクチャーを受けるという学習機会もいただきました。

【試合を通じて】

私は各ゲームデイで1試合ずつ（#1～#3の3試合はBJ、#4と#5の2試合はSJ担当）、計5試合担当しました。

今大会は事実上日本、メキシコ、アメリカ3カ国の争いでもあったため、後半に組まれたこの3チーム間の試合はレモニアさんレフリーの元、日本人審判を多く配したクルーアサインとなり、特に#4のアメリカ - メキシコ戦、#5 最終戦のメキシコ - 日本戦は、日本人審判6人全員がアサインされました。各国の人員構成の関係もあったのだと思いますが、レモニアさんから日本人審判への信頼感を感じることができました。

ポストゲームミーティングの様子

8人制メカニックに関しては、あまり慣れていない中国人や韓国人審判とのコミュニケーションも、大きな問題なく取れたかと思いました。後半3試合は縦・横関係のクルーが日本人同士ということもあり「(いざという時は) 日本語で確認しましょう」と申し合わせて試合を行ないました。ただ反則が発生した際の事実確認やレフリー（レモニアさん）への報告は私の英語力が拙かったこともあり、なかなかうまくいかない部分もあり反省すべきことがいろいろありました（内容の報告や施行の確認に関しては間違いなくできたのですが）。

今回一番感じたのが「選手への声かけの大切さ」でした。大会後半、優勝争いをしている日本、アメリカ、メキシコ3チームの直接対決の試合では、選手間でかなりエキサイトする場面がたびたび起こりました。いざこざに発展しそうな選手の間に私たち審判が割って入るのはもちろんなのですが、加えて声をかけることでその場をクールダウンさせることが有効となりました。また「口頭での指導（talk to)」も大変意味を持つものになりました。選手間のコンタクトに関して、フラッグを出すまでには至らなかったものや、不必要な「ちょっかい」をする選手に対して積極的に（拙い英語でしたが）声掛けすることで揉め事の芽をできるだけ摘んでおくことが大変有効となりました。

私が担当した5試合のうち4試合がレモニアさんがレフリーだったのですが、今大会のGC・PCオペレーターを

閉会式後　ボランティアの方々と

大会ボランティアが担当していたため、レモニアさんの計時シグナルになかなか反応してくれないと（私がシグナルをリレーしていたのですが）、「○○に修正して」と

結構ナーバスな口調でアナウンスする場面がたびたびあり、個人的にもう少しサポートできることがあったかもと思いました。

GameDay の夜　ホテル隣の串焼屋にて

5 月に今回の任務をいただいてから準備期間を経てハルビンに渡るまで、個人的にはただ「full of anxiety（不安しかない）」という状態でしたが、大変貴重な経験をさせていただき、また新たな課題を見つけることができた 13 日間でした。このような機会を与えていただいた関東審判部の皆様、レモニアさん、田中さんをはじめとしたクルーの皆様、大会運営に携わってくださった皆様のお力添えをいただいて無事乗り切ることができました。末筆となりましたが、この場を借りまして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

【ハルビンの街について（余談）】

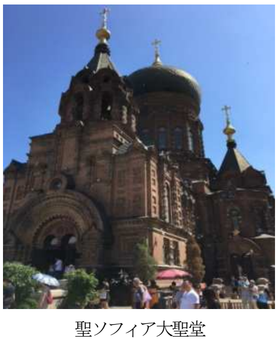
中国・黒竜江省にあるハルビン市は人口約 1000 万人を擁する大都市で、中国北部最大級の都市です。現在も街中のあちらこちらで高層マンションの建設ラッシュの状態で発展を続けています。

ハルビン中心地

今回行程の中で何日か自由行動の時間があり、いくつかの場所をめぐることができました。

〔ハルビン市街地〕

宿泊先のホテルからバスで 20 分ほど南へ向かったところにハルビンの市街地（中心地）があります。



聖ソフィア大聖堂

町並みは中国らしい雑多な雰囲気の中にロシア的な要素も垣間見ることができます。街のシンボルともいえる聖ソフィア大聖堂は 1907 年に建てられたものです。現在内部は建築当時の写真などが展示してある資料館的な役割を果たしています。

ホテルと中心部の間には松花江という大きな川が流れています。川に架かる橋は中洲を経由しておおよそ 3ｋｍ以上もあり、日本ではお目にかかることのできない光景です。2 元（約 35 円）

で遊覧船でのクルーズができます。

〔ショッピングモール〕

ホテルから 3ｋｍほど西へ向かったところに「ワンダシティ」というショッピングモールと屋外遊園地、そして屋内型スキー場（かつて船橋にあったザウスのような施設）が併設された郊外型複合施設があります。午前中が自由行動となった日に 2 回ほどでかけました。モール内は小さなスケートリンクがある他は日本のそれとほぼ同じような店舗構成で、ケンタッキーや吉野家、スターバックスなどもありました（行った際はレモニアさんにスタバのコーヒーをお土産で買って帰るのがお約束でした）。吉野家で一度昼食をとったのですが、日本で食べる牛丼とほぼ同じ値段と味だったのですが。セットでついてきたタピオカドリンクは味もにおいも好みに合わず半分も飲めませんでした。

〔731 部隊資料館〕

23 日は杉本さんたっての希望で、郊外にある 731 部隊の資料館に行きました。ホテルから約 20ｋｍほど西へ（タクシーで 40 分ほど）、実際に研究施設があった場所（現在は工場団地となっている一角）に資料館はあります。第二次大戦中に日本軍の 731 部隊が人体実験を通して細菌の研究や生物兵器、化学兵器の製造などを行なっていた場所です。

資料館内の展示資料

入場無料で、内部は遺跡（終戦直前に日本軍が証拠隠滅目的でほとんどの施設を爆破したため）の中から発掘された物や文献資料が多数展示してあります。入口に日本語のパンフレットがあるのですが、展示ブースには日本語の説明文は一切なく、展示物を淡々と詳細に説明されているところから、かえって罪深さをより浮き立たせた印象を受けました。

特別監獄だった建物の遺構

日時		スケジュール
6/13（水）	15：30 18：30	ハルビン着 メンバー顔合わせ
6/14（木） (GameDay #1)	10：00 13：00 17：00	開会セレモニー アメリカ 69-0 中国 （R 田中/C 岡田/B 波田） 日本 32-0 韓国（雷雨のため途中打ち切り） （H 崎/S 杉本/F 萩原）
6/15（金）	午前中 15：00	自由行動（ホテル近辺散策） ポストゲームミーティング
6/16（土） (GameDay #2)	13：00 17：00	メキシコ 69-0 韓国 （C 岡田/H 崎/B 波田） 日本 70-0 中国 （R 田中/C 岡田/S 杉本/F 萩原）
6/17（日）	8：30 17：00	ハルビン市内観光（大会ボランティア案内） ディナー（馬島さん招待）
6/18（月）	午前中 15：00 20：00	自由行動（郊外のショッピングモールへ） ポストゲームミーティング CJ ポジション教育ビデオ学習
6/19（火） (GameDay #3)	13：00 17：00	アメリカ 42-3 日本 （C 岡田/H 崎/S 杉本/F 萩原/B 波田） メキシコ 70-0 中国 （R 田中/C 崎）
6/20（水）	午前中 15：00	自由行動（郊外のショッピングモールへ） ポストゲームミーティング
6/21（木） (GameDay #4)	13：00 17：00	韓国 42-0 中国 （R 田中/C 杉本） メキシコ 20-17 アメリカ （C 岡田/H 崎/L 田中/S 波田/F 萩原/B 杉本）
6/22（金）	午前中 15：00 21：00	自由行動（ハルビン市内へ） ポストゲームミーティング BBW に関するビデオ学習
6/23（土）	終日	自由行動（731 部隊資料館→ハルビン駅 →市内中心部へ）
6/24（日） (GameDay #5)	13：00 17：00 21：00	アメリカ 69-0 韓国 （C 萩原） メキシコ 39-3 日本 （C 岡田/H 崎/L 田中/S 波田/F 萩原/B 杉本） 慰労会
6/25（月）	8：00	ハルビン発

T☆SO（TEXAS ASSOCIATION of SPORTS OFFICIALS）

渡邉　信

7月19日から7月22日の日程にて、根岸・渡邉にて、アメリカテキサス州にて毎年行われるTASOに出席してまいりました。

【行程】

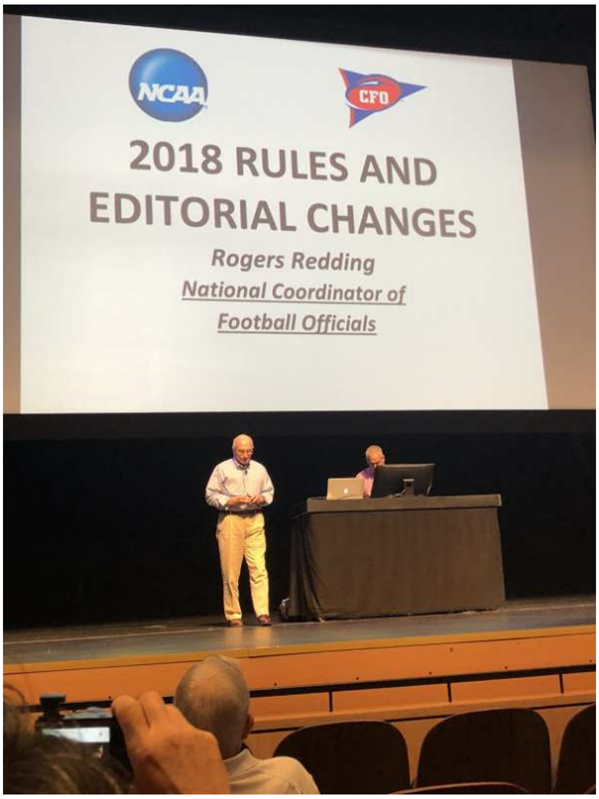
7月19日	成田空港よりカナダ経由にて TEXAS 州 DALLAS 入り
7月20日	TASO１日目
7月21日	TASO２日目
7月22日	DALLAS よりカナダ経由にて日本帰国

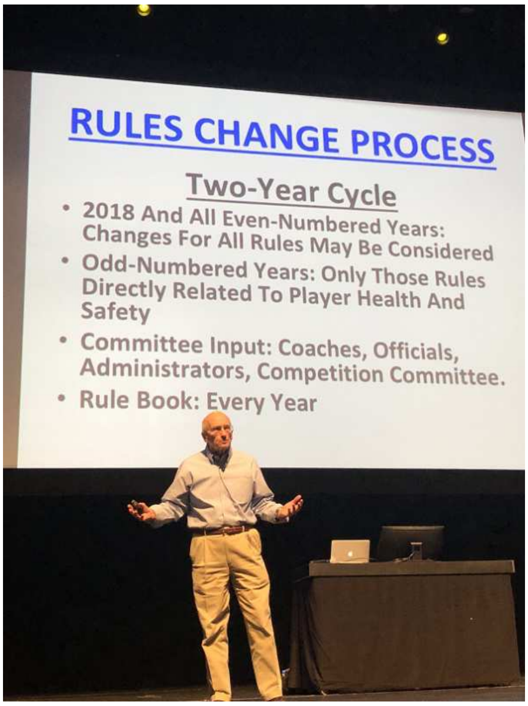
場所はテキサス州ダラスアレン、ダラスフォートワース空港から車で約１時間強位のところにある街です。そのアレンにある ALLEN HIGH SCHOOL で今年の TASO は行われました。

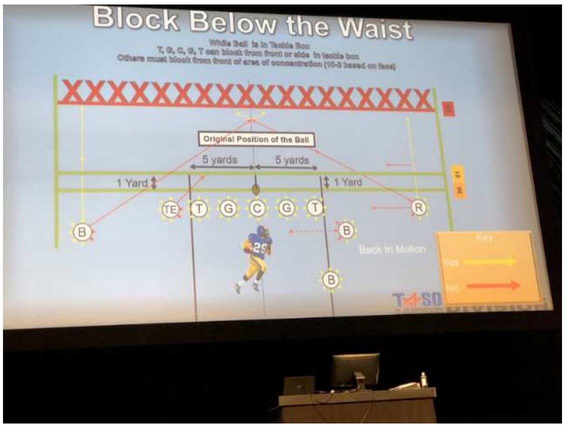
さすがに、7月のテキサスは非常に熱く（約40~42度位ですが湿気が少ないのが救いでした）7月20日に予定されていた、フィールドクリニックはキャンセルとなりました。

その為、1日目はレジストレーションとショップ（オフィシャル用のグッズショップが3店出店しておりました）での買い物だけとなってしまったので、急遽AT&T STADIUM へ行くこととしましたが、時間がなくフィールドのツアーまでは参加できずでした（残念、車で往復約3時間位かかりました）。

さて、21日からクリニック本番となりました。朝8：30 よりジェネラルセッションとして主に今年のルール変更の説明がありました。このセッションは毎年来日されている、ロジャーズ レディング氏が行いました。特に BBW の説明を中心に FOA でも行っている内容のルール変更説明がされました。







このジェネラルセッションを終え、11 時からブレイクアウトセッションへと移行、1 時間ずつの選択式のセッションが 4 コマ昼食を挟んで行われました。

セッション内容は以下の通りです。

ブロッキングルール・7 人制・6 人制・5 人制・キッキングゲーム・パッシングゲーム・オフィシャルフィットネス・罰則施行・ニュークルーチーフ・計時・タイブレイク/オーバータイム・コーチコミュニケーション・レアケースの罰則施行。

上記のセッションを各時間 5 コマ位教室に分けて行っており、自由に選択して参加する流れとなっていました。

ちなみに、渡邉は以下セッションを受講しました。

＃1、キッキングゲーム

＃2、罰則施行

＃3、ニュークルーチーフ

＃4、コーチコミュニケーション

（根岸は、ブロッキングルール、パッシングゲーム、計時、レアケースの罰則施行を受講）

＃1・＃2は主にメカニックが中心、＃3は新人レフェリー向けで、試合前に行うこと（チームとのミーティングやフィールドチェック、プリゲームミーティングの進め方等）＃4はチームコーチとの試合前・中でのコミュニケーションの取り方についてのセッションとなりました。

※セッションの模様

※罰則施行セッション（3&1 の説明）

全体を通して感じたことは、FOA で行っているクリニ

ックの内容とほぼ変わらないことを行っており、逆に言えば FOA で行っているクリニックは内容・方法は本場アメリカで行われているクリニックに遜色がないことが実感できました。

　また、クリニックの進め方などの今後のインストラクター委員の一員としての勉強にもなり非常に有意義な 1 日を過ごすことができました。

【後記】

　TASO に参加させていただいた際、現地でドットソンルイス氏がいらっしゃっており、関西学生審判部の濱田氏､高倉氏とともに食事をする機会もありました。また、TASO の Executive Director の Michel Finch 氏には参加前からホテルの変更等非常に気を使っていただき安心して参加することができました。これまで TASO に参加されてきた部員と TASO の関係が非常に深いものであることも感じました。

　今回このような機会を与えて頂いたことを感謝するとともに、今後の審判活動に役立てられるようにしていきます。

根岸　濱田氏　ルイス氏　フィッチ氏　高倉氏　渡邉
※みんなが着ているのは今年の TASO のユニフォームですが、曰くテーブルクロスのようだと・・・

。